

企業と NPO のパートナーシップ戦略に関する研究

村井 知光

Study on Partnership Strategy between Business Enterprises and NPOs

Tomomitsu Murai

<研究チーム>

研究リーダー 村井知光（現代ビジネス研究所）
共同研究員 昭和女子大学生（3年生1名、1年生2名）
指導教員 高木俊雄先生

<本研究の目的>

「人や組織と一緒に目標を達成するためには何が必要か？」を考えることを目的とするプロジェクトである。さまざまな社会的課題の解決にパートナーシップを組んで取り組む企業と NPO・NGO 等を対象にインタビューを行い、価値観や背景の違うもの同士による「協働」の成功要因を究明することにチャレンジする。

<出発点としての課題意識>

企業と NPO の協働においては一般的な企業間等の協働において重要視される要件とは違うポイント、または逆のポイントがあるのではないだろうか。

<共同研究員（昭和女子大学生）に向けて期待する成果>

本研究は企業と非営利組織間のパートナーシップ事例を対象とするが、その過程で多くの企業および非営利組織、個人との緻密で円滑なコミュニケーションが必要とされる。将来、社会にでて多様な価値観を前提とする国、人種、組織等と関係を構築していく本学生にとって、目的をもって働くことの意義、パートナーシップへの理解とともにコミュニケーションの本質につき有益な示唆に富んだ知見を得ることができるのではないだろうか。

そして、欧米においては非営利組織が大学生の就職先として広く認知されており、我が国においても就職の選択肢として徐々にではあるが浸透しはじめている。本研究の重要な研究対象である NPO・NGO 等の非営利組織の活動については男性よりもとくに女性の関心

が高いこともあり、新卒での選択肢にとどまらず、本学出身者の生涯に渡ったキャリアプランの設計において本研究で得られた知見が重要な道標となることが期待される。

＜共同研究員（昭和女子大学生）の主なミッション＞

企業、NPO 等へのインタビュー調査への参画
（インタビュー内容の設計・実施・とりまとめ等）

＜リサーチにおいて留意したいポイント＞

◎ 営利・非営利、ステークホルダー（利害関係者）等、組織間における目的・価値観の違いをどのように乗り越えたか。

◎ 企業の社会的責任（CSR）に関して

企業が利益を追求するだけでなく、自社の組織活動が社会へ与える影響に責任をもち、事業活動等を通じてどのように社会に貢献を果たしているか。

＜2016 年度の活動の重点＞

おもに対象企業・団体等への現場インタビューを中心に実施した。

＜インタビュー実施企業・団体等＞

◎ 非営利組織等

- ・ NPO 法人 未来をつかむスタディーズ
- ・ NPO 法人 生き生き元気塾

◎ 企業等

- ・ 東日本旅客鉄道株式会社
- ・ パナソニック株式会社
- ・ NTT Com Asia Limited

◎ 地方自治体

- ・ 鎌倉市 市民活動推進課

◎ その他

- ・ 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

＜インタビューを通じて得られた主な知見＞

- ・ 想定をしていた範囲でのフィードバック
→異なる組織間のパートナーシップにおいては夫々の組織の理念、価値観への相互の深い理解が必須である。
- ・ 想定をしていなかったフィードバック
→協働の端緒となるアプローチは NPO 側からが多い。

＜次年度の研究に向けた課題＞

本年度の研究は、社会的な課題の生じている現場において協働の各当事者が抱える問題意識を直接のインタビューによって探ることに重きをおいて行なった。次年度においては、広範に渡った研究対象プロジェクトの方向性を選定し絞り込み、企業、NPO、自治体へのインタビューを更に継続していきたい。

また、本年度の研究体制における大きな課題は、研究員間のスケジュール調整であった。簡便なソフト等を導入し次年度はより円滑な研究活動を実現したいと考える。

＜参考文献＞

C.K. プラハラード (2010 年) 『ネクスト・マーケットー「貧困層」を「顧客」に変える次世代ビジネス戦略』 英知出版

経済産業省 BOP ビジネス政策研究 (2010 年) 『BOP ビジネス政策研究会報告書一途上国における官民連携の新たなビジネスモデルの構築』

独立行政法人 中小基盤整備機構 (2013 年) 『中堅・中小企業の海外展開における国際連携動向調査』 報告書